

# 山武地区ゲートボール大会で優勝

## やったぞ

—栗山チーム—



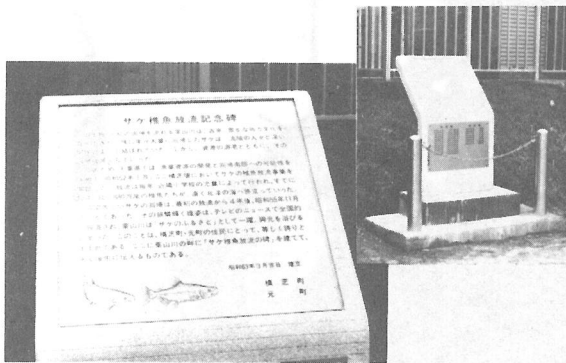
5月18日山武地区ゲートボール大会が東金市民スポーツ広場で開催され、当町から出場した栗山チームが優勝、町原チームが第3位という輝かしい成績をおさめました。

この大会には、郡内から64チームの精鋭が参加しましたが、栗山チームは日ごろの練習の成果が実を結び、念願の初優勝となりました。

毎週3回(月・水・金曜日)ほど練習しているところ、会場の栗山青年館に出かけてみたところ、すでに練習は始まっており「天気さえ良ければ8時半ごろから夕方までやります。紅白試合をやつてますから夢中になってしまひ、暑さなんか気になりませんよ」と次の試合に向けて闘志を燃やしていました。

川は古くから私たちの生活に深く係わりをもつてきました。豊かな自然を育み、私たちの生活を支えてきたのが「川」といつても言い過ぎではないでしょう。  
私たちにとつていちばん身近な「川」はなんといっても栗山川。昭和52年からサケの放流事業が始まり、これまでに八百八十万尾の稚魚が遠く北の海に旅立ちました。そして、4年後の55年から母なる「川」栗山川に帰つてきています。そこで横芝町と光町では、これからの漁業開発への期待とサケ回帰を後世に伝えるため、横芝堰近くに「サケ稚魚放流記念碑」を建てました。

### 大自然からの贈り物 「サケ」の記念碑を建立



## 文芸

### 俳句

閨薄暑暈へ素足出して見る

宇井 芝童

初蛙ききたる日より外流し

海保 きみ

網焼に春の蛤哭きにけり

勝又やすのり

芍薬の散りたる芯のあわれさに

戸村 静華

掛布団かなぐりたき夜夏浅し

行方はじめ

花櫻桃<sup>ゆずら</sup>手織の音のまがき越し

成田栄三郎

露の渋つく爪をわび茶をいれる

藤代 ゆう

女生徒のかくれ化粧や花の陰

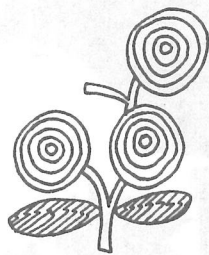
山口 一秋

野良弁当山藤の蔭庭敷き

若梅あやめ

芍薬や雨の重さに傾しぎ立ち

(選者)土屋 栗水



### 短歌

ポットよりハウスに植ゑしメロン苗日毎力の漲りてきぬ

宇井 ちい

わらび採る夫の叫びに野うさぎは吾が前よぎる大きく跳びて

大場 和可

空おほひ咲く桜花病む身にはまた巡り会ふ春のあらむや

掛川 友代

すずらんを持ち来て下さる友がゐるて午後のひととき語らひて過ぐ

斎藤 佳子

吾が留守に店番続けくるる息の高ひふりを誉める人あり

斎藤 幸子

職退めて四ヶ月過ぎやうやくに日々の暮しに夫は慣れきぬ

佐瀬 初音

しなやかに光り反してなびきり君住む里の竹の葉群は

津田 若菜

雨戸閉む手をしばしとめ薄紅に咲き盛りるる杏に見ほるる

西山満里子

夕光が若菜染めつつ暮れゆけば遠田の蛙鳴きそめにけり

萩原 信一

風にのり絮毛ひとつが遊べるを病床にしばし見つめてるたり

斎藤つね子